

ホクレン営農支援情報

(2018年11月号)

●担い手向け研修会（小麦・大豆）を開催します 《営農支援推進課》

ホクレンでは、担い手生産者を対象に、「小麦・大豆」をテーマとした研修会を下記のとおりで開催します。研修の目的は、①基礎知識の習得、②担い手同士のつながりの強化 です。なお、「小麦・大豆」をテーマとした研修会は今回が第1回目となります。参加を希望される方は、ホクレン各支所の営農支援室まで。

【開催日時】 平成30年12月12日（水）10:40～13日（木）13:50

※1泊2日の合宿研修

【受講場所】 ホクレン研修センター（札幌市東区北22条東2丁目）

【受講対象】 就農後、概ね5年以内の小麦または大豆生産者

【研修内容】 畑作における土づくり、小麦・大豆の生育と栽培管理の基本、畑作の病害虫と防除法、小麦の品質評価、小麦・大豆の販売情勢、畑作地域のスマート農業、総合討論（意見交換） 等

【申込方法】 農協を通じて、ホクレン各支所の営農支援室へ。



昨年実施した「水稻」をテーマとした研修会の様子

● 1年を通じて農場で酪農を学ぶ「酪農研修生」を募集 《訓子府実証農場》

訓子府実証農場では、来年4月から1年間、農場での酪農研修を通じ、酪農後継者または酪農関連への就職を志している方を対象に、酪農畜産に関する必要な知識や技能を実践的に学ぶ「2019年度酪農研修生」を下記のとおり募集しています。

【研修期間】 2019年3月末～2020年3月末（1年間・場内全寮制）

【研修場所】 ホクレン訓子府実証農場（訓子府町字駒里184番地7）

【応募資格】 将来、酪農家または酪農関連の仕事を目指し、酪農畜産に関する知識・技能を学ぼうとする心身健康な方。高校卒業以上、経験不問。

【研修内容】 実践研修（乳牛飼養管理、搾乳、子牛哺乳育成、自給飼料栽培管理等）
座学研修（酪農畜産に関する基礎知識）

【資格取得】 車両系建設機械運転技能講習、家畜人工授精師（選抜試験対策）、
2級認定牛削蹄師認定講習、酪農ヘルパー初任者研修I等

【作業日課】 実働8時間

午前5:30～8:00 搾乳、飼料給与、除糞、子牛管理

午前10:00～12:00 牛舎内清掃、敷料交換

午後2:00～5:30 搾乳、飼料給与、除糞、子牛管理

【研修場所】 ホクレン訓子府実証農場
（訓子府町字駒里184番地7）

【応募受付】 2018年11月15日まで

【お問合せ】 訓子府実証農場業務課

Tel0157-47-2191

（担当・石沢）



● 訓子府実証農場自給飼料収穫体系～収穫期を分けてリスク分散～ 《訓子府実

証農場 畜産技術課》

訓子府実証農場ではサイレージ用トウモロコシを約 35ha、牧草を約 81ha 栽培し、自給飼料として利用しています。その内牧草は収穫適期の異なるオーチャードグラス（晩生）主体草地とチモシー（中生）主体草地を一定程度の面積で維持し（図 1）、収穫期の分散を図っています。サイレージの収穫回数はトウモロコシを除いて 5 回と多いですが、収穫 1 回あたりにかかる日数が少ないため、短い晴れ間を狙って収穫を終えることができます。その甲斐もあって収穫時期に雨の多かった今年についても、当農場ではほとんど雨に当てず収穫作業を終えることができました（図 2）。圃場面積が大きい場合にはお勧めの体系です。

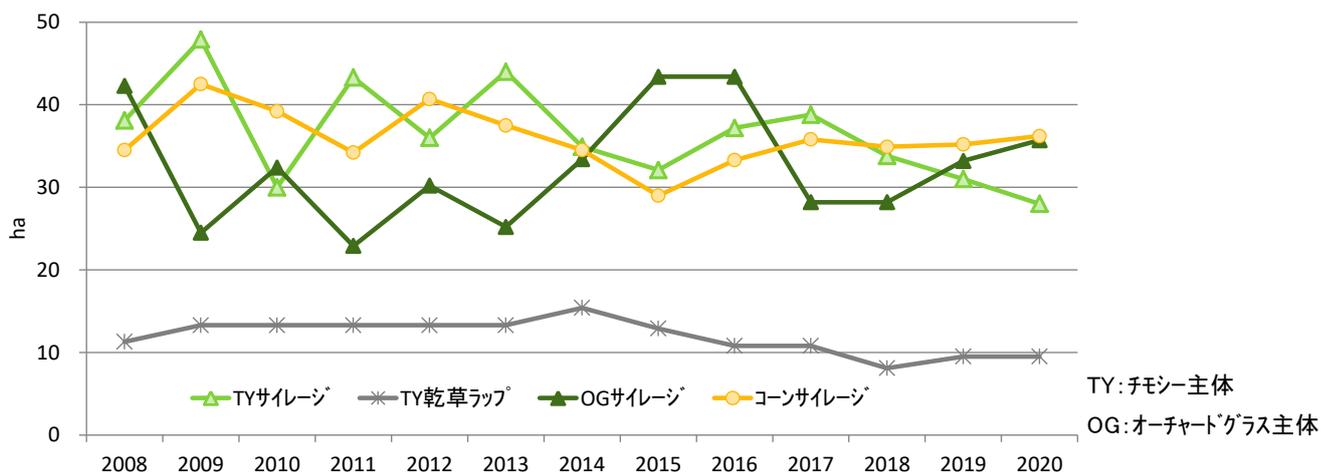


図 1. 訓子府実証農場自給飼料生産圃場面積の推移および計画

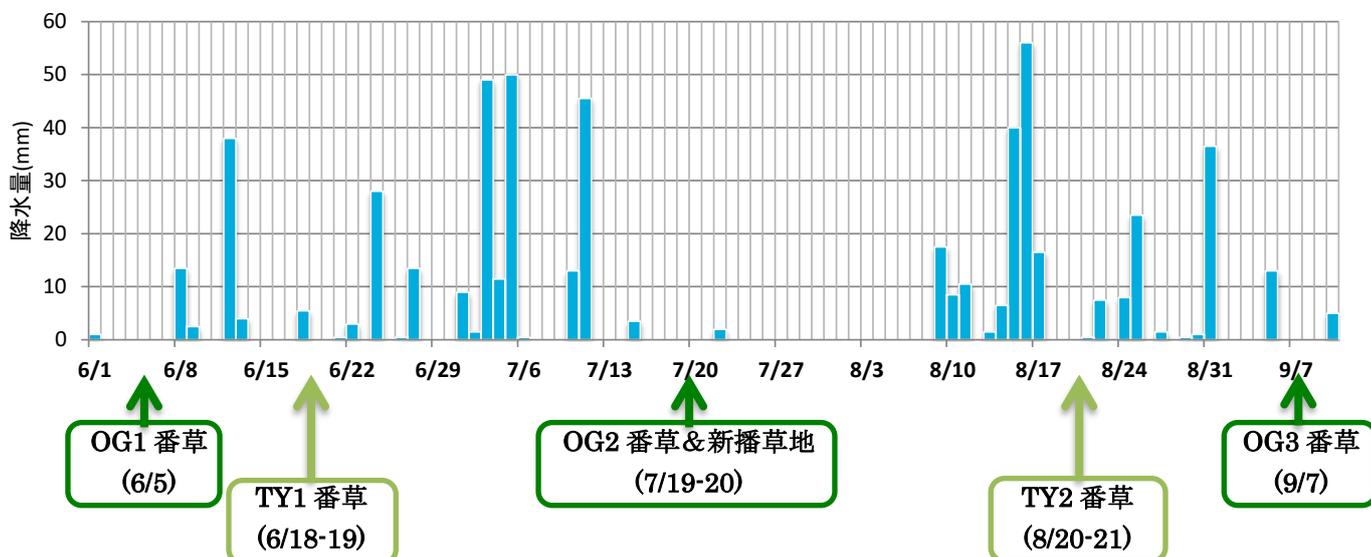


図 2. 2018 年日ごとの合計降水量 (境野アメダス) および訓子府実証農場の牧草収穫日

●「お米の役割りと北海道米の幅広い用途」セミナーのご案内 《食品流通研究課》

北海道米販売拡大委員会の主催で、お米に関する上記セミナーが函館で開催されます。前号（10月号）でお知らせしたセミナーに続き、当課の飯野職員が北海道米の業務用途適性について講演を行います。そのほか、2名の講師による講演や、地元食材を中心とした手軽に作れる料理の試食会なども予定されています。参加料は無料です。

【開催日時】

平成30年12月8日（土）

10:30～14:00

【開催場所】

フォーポイントバイシェラトン

函館 カメリア3階（函館市若松

町14-10）



【お申込み・お問合せ】

Tel:011-221-1551（「お米の役割りと北海道米の幅広い用途」セミナー事務局）

●音更町農協と宮崎県西都農協の労働力地域間連携の取組み 《帯広支所 営農支

援室、営農支援推進課》

音更町農協と宮崎県の西都農協間で労働力相互供与の取組み（地域間連携）を開始しました。この取組みは、春から秋が農繁期となる北海道と、その逆で秋から春が農繁期の九州とでお互いに労働力を補完し合う



交流期間中に音更町農協の撰果場でも作業をおこなった

ことが目的で、ホクレン（帯広支所営農支援室・営農支援推進課）や JA 宮崎経済連も参画し、昨年からの協議を進めてきました。

今年9月5日からは生産者間交流のために西都農協の生産者3名と農協職員1名が来道。音更町の生産者宅でホームステイし、馬鈴しょの収穫作業等に従事しました。交流期間中に発生した北海道胆振東部地震の影響で、途中で作業を切り上げることになってしまいましたが、今後は年明けに音更町農協が西都農協を訪れ、これらの収穫作業などを通じて交流する予定です。

●「オホーツク農業のお仕事説明会」を実施 《北見支所 営農支援室》

北見支所営農支援室が構成員を務めるオホーツク農業協同組合長会は、10月15日(月)に酪農学園大学(江別市)で学生向けに「オホーツク農業のお仕事説明会」を実施しました。この取組みは人材をオホーツクに呼び込み、定着させることが目的です。

当日は、第1部でオホーツク管内全体の特長などをランチを取りながら説明。第2部の「個別ブースでの相談会」では、管内7JAとホクレン訓子府実証農場の職員が、それぞれの地域の特長や就業情報、インターンシップ情報などを説明しました。全体では女子学生を中心に86名が来場。当初の想定以上に学生の参集状況が良く、手ごたえを感じたイベントとなりました。



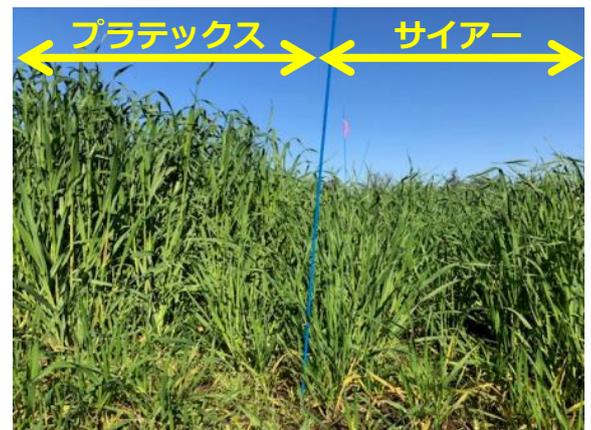
●緑肥の品種・播種時期の比較試験

《札幌支所 営農支援室》

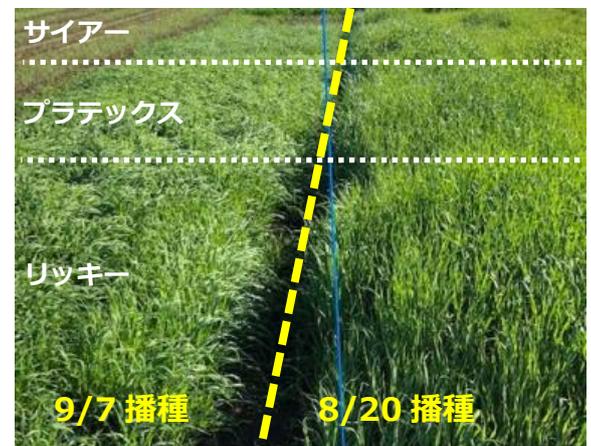
緑肥作物の作付けは、有機物や肥料成分の供給や土壌物理性の改善など多面的な機能が期待されます。アウエナ ストリゴサ（通称、えん麦野生種）はそれに加えて、土壌中の有害線虫の密度を減らす効果があり、よく利用されています。しかし、小麦収穫後の圃場での夏播き栽培では、天気や作業の競合により播き遅れが生じ、十分な生育が確保できない場合が見られます。

そこで、札幌支所営農支援室と苫小牧支所畜産生産課は、JA や農業改良普及センターと協力し、品種と播種時期を組み合わせた比較試験を実施。品種は、早生「リッキー」（2020年頃に一般販売予定）、中生「プラテックス」、晩生「サイアー」の三つ、播種時期は8月20日、8月29日、9月7日としました。10月末現在で、地上部の生育はリッキー>プラテックス>サイアーとなっており、やはり、遅播きでは早生品種が有効なことがわかります。

年内には緑肥の乾物重量、土壌中の線虫密度の推移を調べます。また、来年は、にんじんの収量や線虫被害程度を調べる予定です。



品種の比較（8/20日播種区・10/19撮影）



播種時期の比較（10/19撮影）

発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp